

# 目次

第1章 一般商品売買取引..... 1	2. 会計処理・表示..... 25
第1節 一般商品売買取引の意義と記帳方法 . 1	3. 類似項目..... 26
1. 意義..... 1	第10節 商品の数量計算と単価計算..... 27
2. 記載方法..... 1	1. 払出数量の算定方法..... 27
第2節 分記法..... 3	2. 払出単価の算定方法..... 28
1. 意義..... 3	3. 払出原価の算定方法..... 28
2. 特徴..... 3	第11節 期末商品（棚卸資産）の評価方法.. 29
3. 会計処理..... 3	1. 範囲..... 29
第3節 総記法..... 5	2. 棚卸資産の評価方法..... 29
1. 意義..... 5	3. 棚卸資産の評価基準..... 31
2. 特徴..... 5	4. 収益性の低下の判断及び簿価切下げの 単位..... 36
3. 会計処理..... 5	5. 洗替法と切放法の選択適用..... 37
第4節 小売棚卸法..... 7	6. 期末棚卸資産の特殊な評価方法..... 39
1. 意義..... 7	第12節 商品評価減..... 41
2. 特徴..... 7	1. 分類・原因..... 41
3. 売価還元法との関係..... 7	2. 表示..... 43
4. 会計処理..... 7	第13節 他勘定振替高..... 45
第5節 売上原価対立法..... 11	1. 意義..... 45
1. 意義..... 11	2. 会計処理の例示..... 45
2. 特徴..... 11	3. 商品有高帳との関係（その都度先入先 出法）..... 45
3. 会計処理（総額法による処理）..... 11	4. 表示（関連項目の表示も含む）.... 45
第6節 三分法（狭義）..... 15	第14節 一般商品売買取引のまとめ問題.... 48
1. 意義..... 15	第2章 特殊商品売買取引..... 61
2. 特徴..... 15	第1節 委託販売..... 61
3. 会計処理..... 15	1. 意義..... 61
第7節 商品有高帳..... 19	2. 収益の認識基準〔注解6〕..... 61
1. 意義..... 19	3. 関連項目..... 61
2. 記入方法..... 19	4. 会計処理..... 62
第8節 諸掛（副費）の会計処理..... 23	5. 表示..... 75
1. 仕入諸掛（仕入副費）..... 23	第2節 割賦販売..... 77
2. 販売諸掛..... 24	1. 意義..... 77
第9節 現金割引..... 25	
1. 意義..... 25	

2. 収益の認識基準〔注解6〕	77	第4章 特殊商品売買取引と原価率の算定 のま	
3. 関連項目	78	とめ問題	153
4. 会計処理（割賦利息は除く。）	80	解答用紙集	178
5. 割賦利息	103	Point up lesson 1	178
6. 表示	107	point up lesson 2	178
第3節 未着商品売買	111	point up lesson 3	179
1. 意義	111	point up lesson 4	180
2. 仕入・未着品売上の計上時点	111	point up lesson 5	180
3. 関連項目	111	point up lesson 6	181
4. 会計処理	111	point up lesson 7	181
第4節 試用販売	121	point up lesson 8	181
1. 意義	121	point up lesson 9	182
2. 収益の認識基準〔注解6〕	121	point up lesson 10	183
3. 関連項目	121	point up lesson 11	184
4. 会計処理	122	point up lesson 12	184
5. 表示	129	point up lesson 13	184
第5節 予約販売	131	point up lesson 14	185
1. 意義	131	point up lesson 15	185
2. 収益の認識基準〔注解6〕	131	point up lesson 16	186
3. 会計処理	131	point up lesson 17	186
第6節 受託販売	133	point up lesson 18	187
1. 意義	133	point up lesson 19	188
2. 収益の認識基準	133	point up lesson 20	189
3. 会計処理	133	point up lesson 21	189
4. 表示	136	point up lesson 22	190
第7節 委託買付・受託買付	137	point up lesson 23	190
1. 意義	137	point up lesson 24	191
2. 収益及び費用の認識基準	137	point up lesson 25	192
3. 会計処理	137	point up lesson 26	193
4. 表示	141	point up lesson 27	194
第8節 先物売買	141	point up lesson 28	195
1. 意義	141	point up lesson 29	196
2. 会計処理	141	point up lesson 30	197
3. 表示	143	point up lesson 31	198
第3章 原価率の求め方	145	point up lesson 32	199

point up lesson 33 .....	200	point up lesson 68 .....	223
point up lesson 34 .....	201	point up lesson 69 .....	224
point up lesson 35 .....	203	point up lesson 70 .....	225
point up lesson 36 .....	203	point up lesson 71 .....	226
point up lesson 37 .....	204		
point up lesson 38 .....	205		
point up lesson 39 .....	206		
point up lesson 40 .....	207		
point up lesson 41 .....	208		
point up lesson 42 .....	208		
point up lesson 43 .....	209		
point up lesson 44 .....	210		
point up lesson 45 .....	210		
point up lesson 46 .....	211		
point up lesson 47 .....	211		
point up lesson 48 .....	212		
point up lesson 49 .....	212		
point up lesson 50 .....	212		
point up lesson 51 .....	212		
point up lesson 52 .....	212		
point up lesson 53 .....	213		
point up lesson 54 .....	213		
point up lesson 55 .....	214		
point up lesson 56 .....	214		
point up lesson 57 .....	215		
point up lesson 58 .....	215		
point up lesson 59 .....	216		
point up lesson 60 .....	217		
point up lesson 61 .....	218		
point up lesson 62 .....	219		
point up lesson 63 .....	220		
point up lesson 64 .....	220		
point up lesson 65 .....	221		
point up lesson 66 .....	222		
point up lesson 67 .....	223		



# 第 1 章 一般商品売買取引

## 第 1 節 一般商品売買取引の意義と記帳方法

### 1. 意義

一般商品売買取引とは、特別の条件のない商品の仕入取引と販売取引である。ここにいう商品とは、商業を営む会社が販売の目的をもって所有する物品であって、当該企業の営業主目的に係るものである。

### 2. 記帳方法

	種 類	売 上 高 の 算 定 場 所	売 上 原 価 の 算 定 場 所	販売益の算定場所	
				総額法 (注1)	純 額 法 (注2)
商品勘定を分割しないで処理する方法	分記法 商 品 原価   原価	—	—	—	商 品 販 売 益 a/c
	総記法 商 品 原価   売価		—	—	
	小売棚卸法 商 品 売価   売価		—	—	
商品勘定を分割して処理する方法	二分法 (注3)	売 上 a/c	仕 入 a/c	損 益 a/c	売 上 a/c (注7)
	三分法 (広義) 三分法 (狭義)	売  上	仕 入 a/c  又は 売上原価 a/c	損  益	売  上
	五分法 (注4)		又は		
	七分法 (注5)				
	九分法 (注6)	a/c	損 益 a/c	a/c	a/c (注7)

(注1) 総額法… 商品販売高と商品販売原価とを両建てで損益勘定に振替える方法。

(注2) 純額法… 商品販売高と商品販売原価との差額である販売益のみを損益勘定に振替える方法。

(注3) 二分法… 商品勘定を仕入勘定と売上勘定の二勘定に分割して一般商品売買取引を記帳する方法。

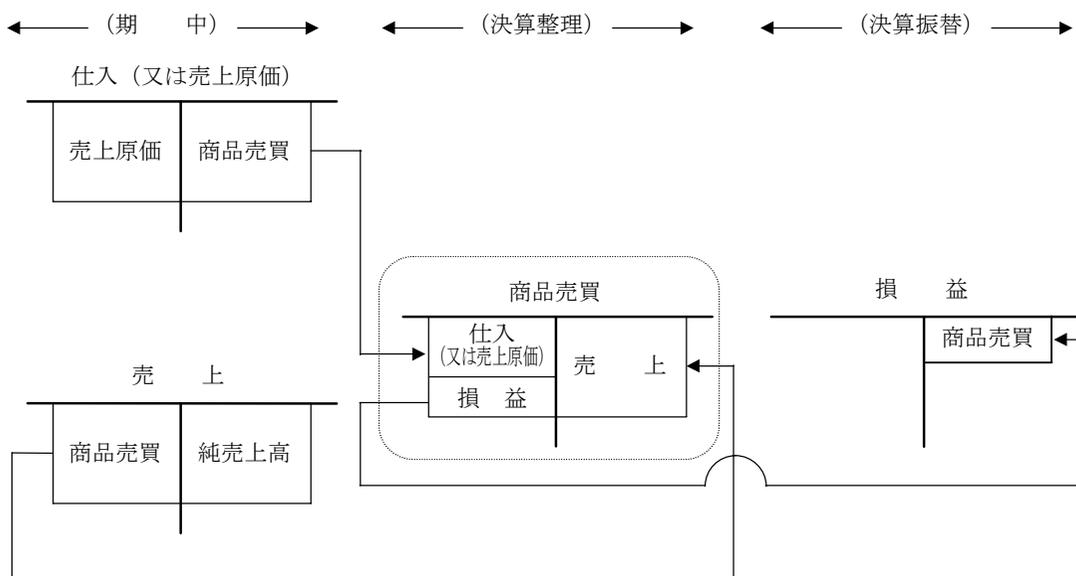
(注4) 五分法… 商品勘定を繰越商品勘定、仕入勘定、売上勘定、仕入値引・戻し勘定、売上値引・戻り勘定の五勘定に分割して一般商品売買取引を記帳する方法。

(注5) 七分法… 商品勘定を繰越商品勘定、仕入勘定、売上勘定、仕入値引勘定、仕入戻し勘定、売上値引勘定、売上戻り勘定の七勘定に分割して一般商品売買取引を記帳する方法。

(注6) 九分法… 商品勘定を繰越商品勘定、仕入勘定、売上勘定、仕入値引勘定、仕入戻し勘定、仕入割戻し勘定、売上値引勘定、売上戻り勘定、売上割戻し勘定の九勘定に分割して一般商品売買取引を記帳する方法。

(注7) 純額法による販売益の算定場所として商品売買勘定を設定することもある。

<勘定連絡図>



## 第2節 分記法

### 1. 意義

分記法とは、一般商品売買の取引を商品勘定と商品販売益勘定に記録し、販売の都度、商品販売益を算出する記帳方法である。

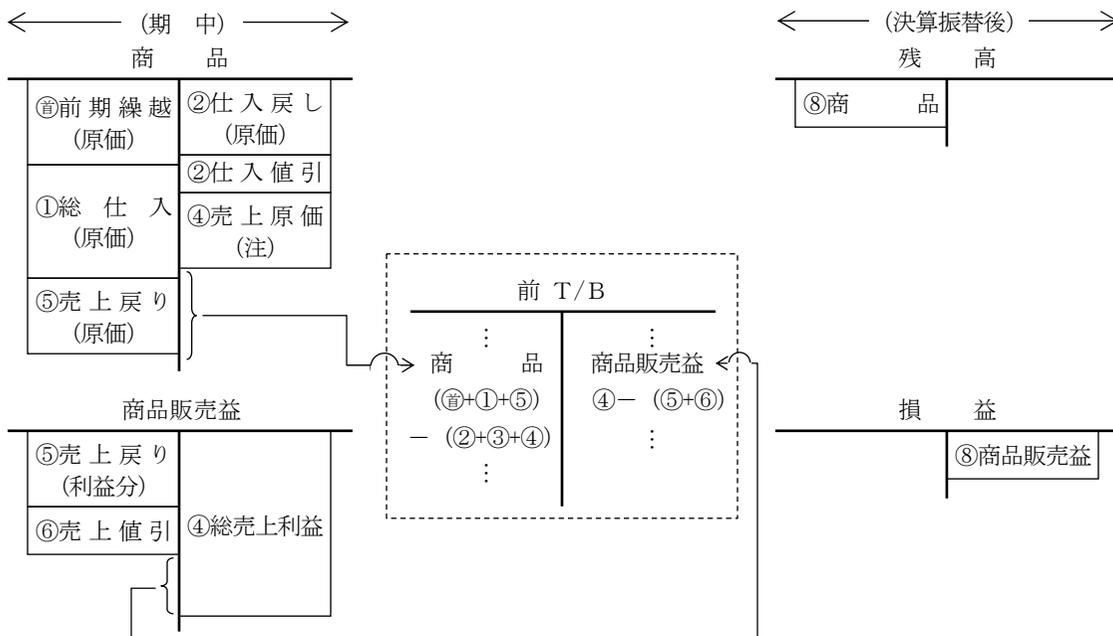
### 2. 特徴

- ① 商品仕入時に商品勘定の借方に仕入原価で記帳し、商品販売時に商品勘定の貸方に販売に見合う仕入原価（販売原価）を記帳するとともに商品販売益勘定の貸方に実現利益（販売売価と販売原価の差額）を記帳する。
- ② 商品勘定は常に借方残となって商品の現在有高（原価）を示し、純粋に資産勘定としての性質を有する。
- ③ 販売の都度、商品販売益が算出されるため決算整理仕訳は不要となる。
- ④ この記帳方法は商品有高帳を用いた継続記録法の採用を前提としている。

### 3. 会計処理

取引形態	仕 訳	留 意 点
期 中	①仕入 (借)商品×× (貸)買掛金××	掛による場合。
	②仕入戻し (借)買掛金×× (貸)商品××	仕入時に原価で記帳しているため、その反対仕訳を原価で行う。
	③仕入値引 (借)買掛金×× (貸)商品××	仕入時に利益を付加しないで記帳しているため、その反対仕訳を値引額（原価部分）だけ行う。
	④売上 (借)売掛金×× (貸)商品×× 商品販売益××	掛による場合。
	⑤売上戻り (借)商品×× (貸)売掛金×× 商品販売益××	売上時に商品勘定及び商品販売益勘定の貸方に記帳しているため、その反対仕訳を行う。
	⑥売上値引 (借)商品販売益×× (貸)売掛金××	売上時に販売益を商品販売益勘定の貸方に記帳しているため、値引額（利益部分）だけ商品販売益勘定を減額する。
決 算	⑦整理 —	販売の都度、商品販売益が算出されるため決算整理仕訳は不要となる。
	⑧振替 (借)商品販売益×× (貸)損益××	商品販売益勘定の残高を損益勘定に振替える。
	(借)残高×× (貸)商品××	商品勘定の残高を残高勘定に振替える。

<勘定連絡図> (前頁の取引番号と対応している。)



(注) 売上戻り考慮前の金額であり最終的な売上原価ではない。

point up lesson 1

解答用紙は P. 178

次の資料にもとづき勘定連絡図を書きなさい。

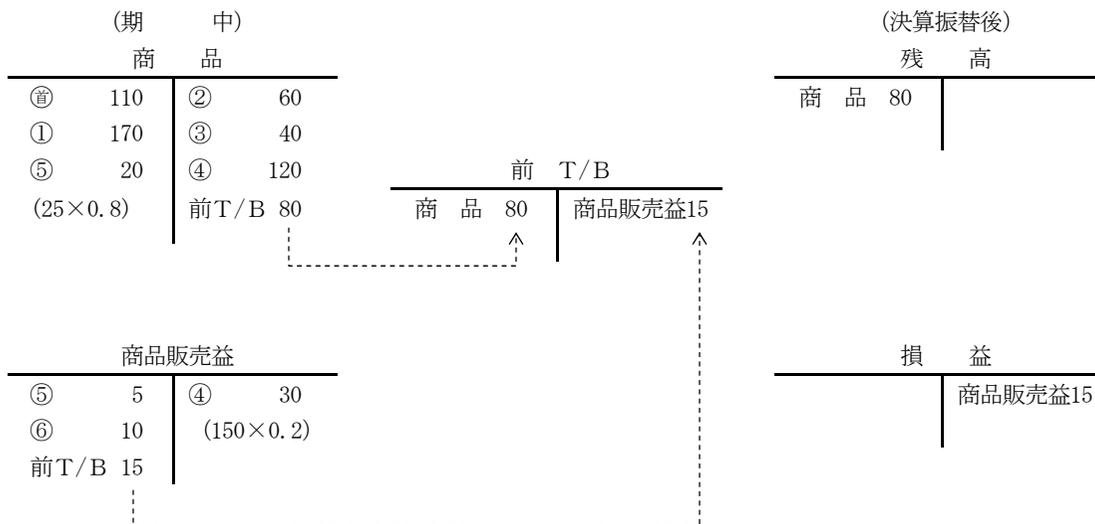
期首商品棚卸高: 110

①総仕入高: 170, ②仕入戻し高: 60, ③仕入値引高: 40

④総売上高: 150, ⑤売上戻り高: 25, ⑥売上値引: 10

期末商品棚卸高: 80 (戻り商品を含む)

なお、売上利益率は20%である。



### 第3節 総記法

#### 1. 意義

総記法とは、一般商品売買の取引を商品勘定に記録し、決算時に商品販売益勘定を設定して一括して直接商品販売益を算出する記帳方法である。

#### 2. 特徴

- ① 商品仕入時に商品勘定の借方に仕入原価で記帳し、商品販売時に商品勘定の貸方に販売価で記帳する。
- ② 商品勘定は混合勘定としての性質を有する。
- ③ 期中では商品販売益が算出されず、決算整理仕訳を行うことにより初めてその商品販売益が算出される。

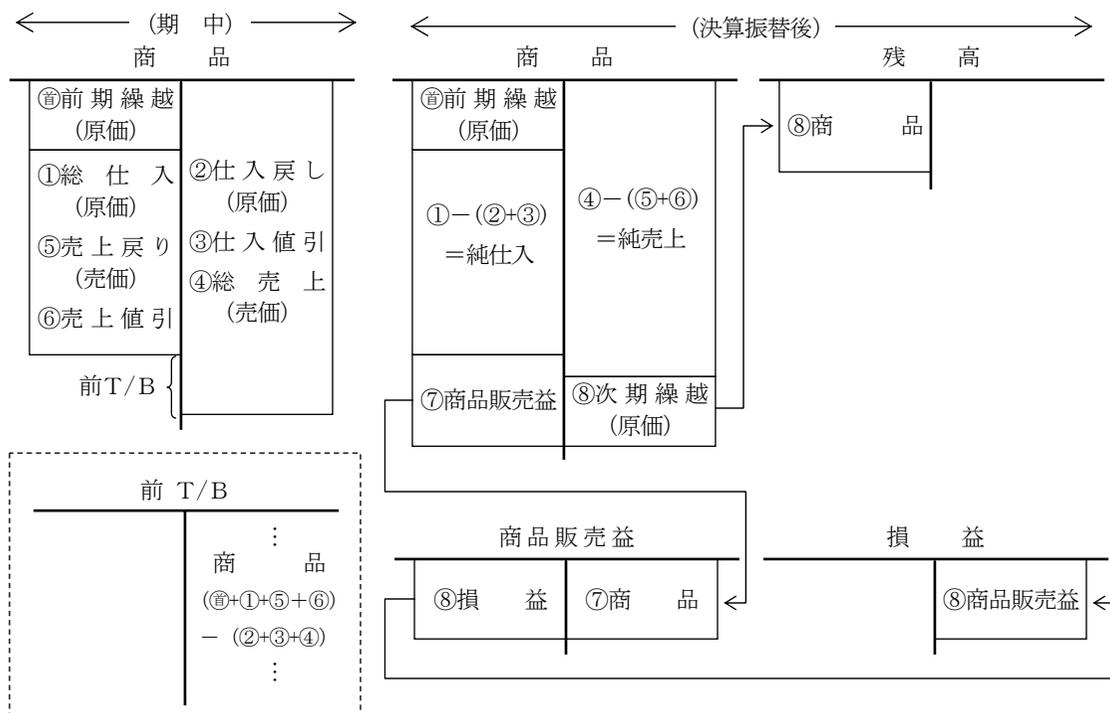
#### 3. 会計処理

取引形態	仕 訳	留 意 点
期     中	①仕入 (借)商品×× (貸)買掛金××	掛による場合。
	②仕入戻し (借)買掛金×× (貸)商品××	仕入時に原価で記帳しているため、その反対仕訳を原価で行う。
	③仕入値引 (借)買掛金×× (貸)商品××	仕入時に利益を付加しないで記帳しているため、その反対仕訳を値引額(原価部分)だけで行う。
	④売上 (借)売掛金×× (貸)商品××	掛による場合。
	⑤売上戻り (借)商品×× (貸)売掛金××	売上時に売価で記帳しているため、その反対仕訳を売価で行う。
	⑥売上値引 (借)商品×× (貸)売掛金××	売上時に利益を付加して記帳しているため、その反対仕訳を値引額(利益部分)だけ行う。
決  算	⑦整理 (借)商品×× (貸)商品販売益××	売上純利益を商品販売益勘定に振替える。
	⑧振替 (借)商品販売益×× (貸)損益×× (借)残高×× (貸)商品××	商品販売益勘定の残高を損益勘定に振替える。 商品勘定の残高を残高勘定に振替える。

(コメント)

商品販売益は、決算時に、次期繰越高(原価)を貸方に加算した後の商品勘定の貸借差額により算出される。

<勘定連絡図> (前頁の取引番号と対応している。)



point up lesson 2

解答用紙は P. 178

次の資料にもとづき勘定連絡図を書きなさい。

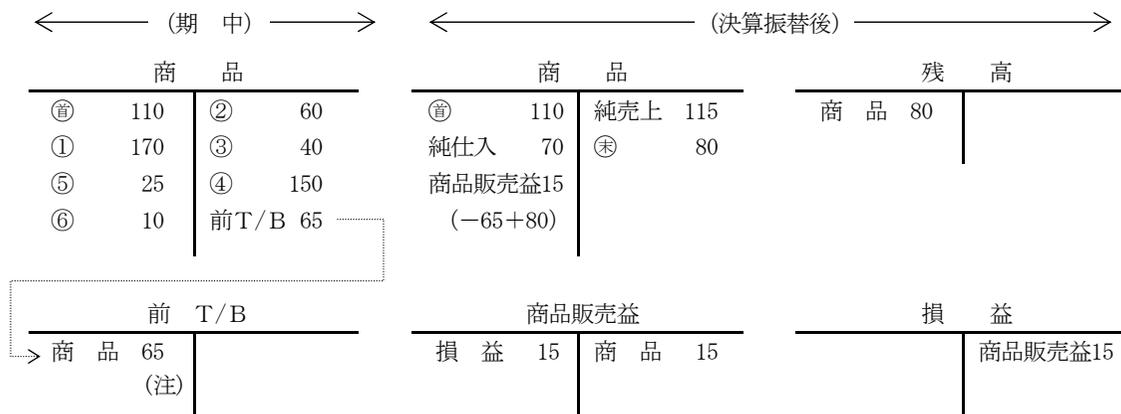
期首商品棚卸高: 110

①総仕入高: 170, ②仕入戻し高: 60, ③仕入値引高: 40

④総売上高: 150, ⑤売上戻り高: 25, ⑥売上値引高: 10

期末商品棚卸高: 80 (戻り商品を含む)

なお、売上利益率は20%である。



(注) 通常は上記<勘定連絡図>のように商品勘定は貸方残高となるが、本設例では借方残高になっていることに注意すること。

## 第4節 小売棚卸法

### 1. 意義

一般商品売買の取引を商品勘定と商品販売益勘定に記録し、決算時に未実現の利益を控除することによって当期実現した商品販売益を算出する記帳方法である。

### 2. 特徴

- ① 商品仕入時に商品勘定の借方に仕入原価に見合う売価を記帳するとともに商品販売益勘定の貸方に未実現利益（仕入原価に見合う売価と仕入原価の差額）を記帳し、商品販売時に商品勘定の貸方に販売売価で記帳する。
- ② 商品勘定は常に借方残となって商品の現在有高（売価）を示す。
- ③ 期中に計上された商品販売益は決算整理仕訳を行うことにより初めて実現利益として確定する。

### 3. 売価還元法との関係

- ① 小売棚卸法は一般商品売買取引の記帳方法であるのに対し、売価還元法は期末商品の評価方法である。
- ② 小売棚卸法における期末商品の評価方法として売価還元法を利用することがある。

### 4. 会計処理

取引形態	仕 訳	留 意 点	
再 振 替	—	i) 間接控除法（注1）においては、通常戻入れ処理は行わない。 ii) 直接控除法（注2）においては次の仕訳を行う。 (借) 商 品 × × (貸) 商品販売益 × ×	
期 中  (注3)	①仕 入	(借) 商 品 × × (貸) 買 掛 金 × × 商品販売益 × ×	商品勘定の借方に仕入原価に未実現の商品販売益を加算した額を記帳する。
	②仕入戻し	(借) 買 掛 金 × × (貸) 商 品 × × 商品販売益 × ×	仕入取引の反対取引であるため、仕入時の反対仕訳を行う。
	③仕入値引	(借) 買 掛 金 × × (貸) 商品販売益 × ×	売価が一定である限り仕入値引は利益の増加を意味するので商品販売益勘定の貸方に記帳される。
	④売 上	(借) 売 掛 金 × × (貸) 商 品 × ×	仕入時にすでに商品販売益を計上しているため仕訳上利益の認識はされない。
	⑤売上戻り	(借) 商 品 × × (貸) 売 掛 金 × ×	売上取引の反対取引であるため、売上時の反対仕訳を行う。
	⑥売上値引	(借) 商品販売益 × × (貸) 売 掛 金 × ×	売上値引は仕入時に計上した利益の一部を取消すことを意味するので商品販売益勘定の借方に記帳される。

決 算  (注4)	⑦整理	繰延商品 (借) 販売益 ×× (貸) 商品販売益 ××  (借) 商品販売益 ×× (貸) 繰延商品 ×× 販売益	i) 当期実現した繰延商品販売益を戻入れ、当期末未実現利益を繰延商品販売益勘定の貸方に記帳して繰延べる。  ii) 直接控除法においては次のように商品勘定を直接減額させる。  (借) 商品販売益 ×× (貸) 商品 ××
--------------------	-----	--	---

(注1) 間接控除法とは、期末商品売価に含まれている未実現利益を繰延商品販売益勘定を設定し間接的に控除する方法である。

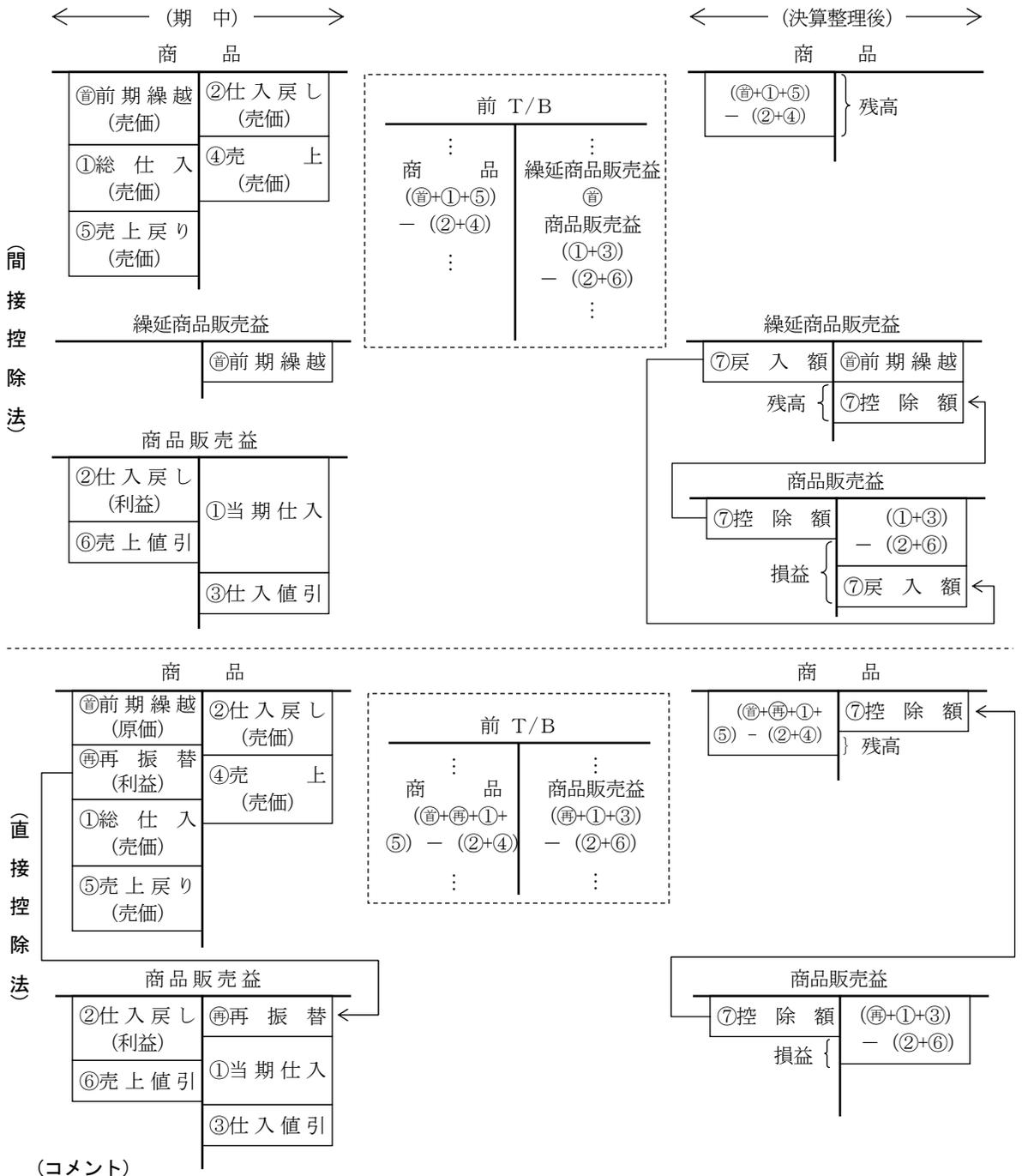
(注2) 直接控除法とは、期末商品売価に含まれている未実現利益を商品勘定から直接的に控除する方法である。

(注3) 値上、値下等の処理

	仕 訳	留 意 点
値 上	(借) 商品 ×× (貸) 商品販売益 ××	値上は未実現の商品販売益の増加を意味する。
値上取消	(借) 商品販売益 ×× (貸) 商品 ××	値上取引の取消取引であるため、値上時の反対仕訳を行う。
値 下	(借) 商品販売益 ×× (貸) 商品 ××	値下は未実現の商品販売益の減少を意味する。
値下取消	(借) 商品 ×× (貸) 商品販売益 ××	値下取引の取消取引であるため、値下時の反対仕訳を行う。

(注4) 損益振替・残高振替については省略。

<勘定連絡図> (前頁の取引番号と対応している。)



小売棚卸法によった場合、決算整理前残高試算表における商品販売益勘定には、直接・間接のどちらによろうと上記のように未実現利益が含まれている。これに対して、分記法によった場合の商品販売益勘定は、実現利益のみである。よって、分記法において決算整理は不要であるが小売棚卸法では必要となるのである。

point up lesson 3

解答用紙はP. 179

次の資料にもとづき勘定連絡図を書きなさい。

	原価	売価		売価
期首商品棚卸高	110	116	④総売上高	150
①総仕入高	160	182	⑤売上戻り高	25
②仕入戻し高	60	73	⑥売上値引高	10
③仕入値引高	30	—		
期末商品棚卸高	80	100		

(間接控除法)

← (期中) →

商品	
④ 116	② 73
① 182	④ 150
⑤ 25	前T/B 100

繰延商品販売益	
前T/B 6	④ 6

前T/B	
商品 100	繰延商品販売益 6
	商品販売益 29

商品販売益	
② 13	① 22
⑥ 10	③ 30
前T/B 29	

← (決算処理後) →

商品	
前T/B 100	残高 100

繰延商品販売益	
戻入 6	前T/B 6
残高 20	控除 20

商品販売益	
控除 20	前T/B 29
損益 15	戻入 6

(直接控除法)

商品	
④ 110	② 73
⑥ 6	④ 150
① 182	前T/B 100
⑤ 25	

前T/B	
商品 100	商品販売益 35

商品販売益	
② 13	⑥ 6
⑥ 10	① 22
前T/B 35	③ 30

商品	
前T/B 100	商品販売益 20
	残高 80

商品販売益	
商品 20	前T/B 35
損益 15	

## 第5節 売上原価対立法

### 1. 意義

売上原価対立法とは、一般商品売買の取引を商品勘定、売上原価勘定及び売上勘定に記録し、販売の都度、売上高と売上原価の対応を図る記録方法である。

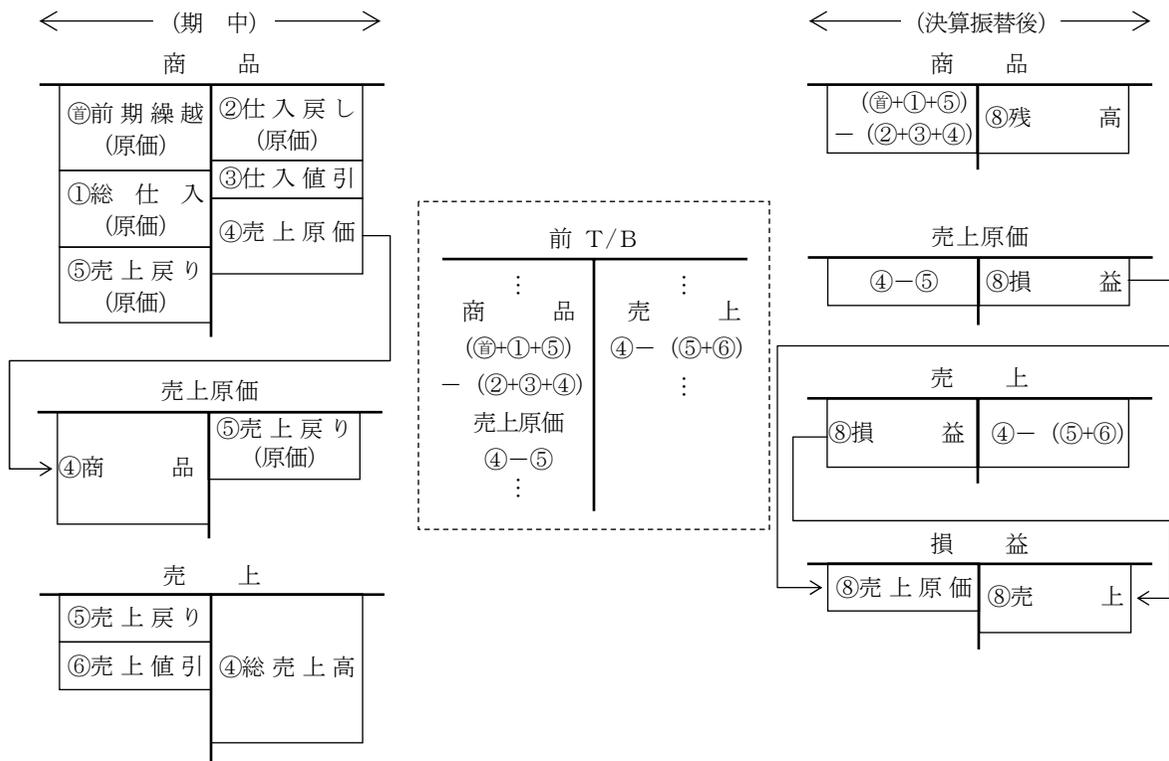
### 2. 特徴

- ① 商品仕入時に商品勘定の借方に仕入原価で記帳し、商品販売時に販売売価を売上勘定の貸方に記帳するとともに、その販売原価を商品勘定の貸方から売上原価勘定の借方に振替え記帳する。
- ② 商品勘定は常に借方残となり商品の現在有高（原価）を示し、純粹に資産勘定としての性質を有する。
- ③ 販売の都度、商品販売益が算出されるため決算整理仕訳は不要である。
- ④ この記帳方法は商品有高帳を用いた継続記録法の採用を前提としている。

### 3. 会計処理（総額法による処理）

取引形態		仕 訳	留 意 点
期 中	①仕入	(借)商品×× (貸)買掛金××	掛による場合。
	②仕入戻し	(借)買掛金×× (貸)商品××	仕入時に原価で記帳しているため、その反対仕訳を原価で行う。
	③仕入値引	(借)買掛金×× (貸)商品××	仕入時に利益を付加しないで記帳しているため、その反対仕訳を値引額（原価部分）だけ行う。
	④売上	(借)売掛金×× (貸)売上×× (借)売上原価×× (貸)商品××	掛による場合。売上に見合う仕入原価を売上原価勘定の借方に記帳する。
	⑤売上戻り	(借)売上×× (貸)売掛金×× (借)商品×× (貸)売上原価××	売上時の反対仕訳を行う。
	⑥売上値引	(借)売上×× (貸)売掛金××	値引額（利益部分）だけ売上勘定を減額する。
決 算	⑦整理	—	販売の都度、商品販売益が算出されるため決算整理仕訳は不要である。
	⑧振替	(借)売上×× (貸)損益×× (借)損益×× (貸)売上原価×× (借)残高×× (貸)商品××	売上勘定、売上原価勘定の残高を損益勘定に振替える。 商品勘定の残高を残高勘定に振替える。

< 勘定連絡図 > (前頁の取引番号と対応している。)



point up lesson 4

解答用紙は P. 180

次の資料にもとづき勘定連絡図を書きなさい。

期首商品棚卸高: 110

①総仕入高: 170, ②仕入戻し高: 60, ③仕入値引高: 40

④総売上高: 150, ⑤売上戻り高: 25, ⑥売上値引高: 10

期末商品棚卸高: 80 (戻り商品を含む)

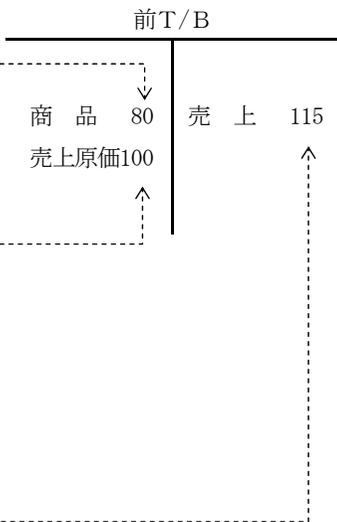
なお, 売上利益率は20%である。

← (期 中) →

商 品	
④ 110	② 60
① 170	③ 40
⑤ 20	④ 120
(25×0.8)	前T/B 80

売上原価	
④ 120	⑤ 20
(150×0.8)	前T/B 100

売 上	
⑤ 25	④ 150
⑥ 10	
前T/B 115	



← (決算振替後) →

商 品	
前T/B 80	残 高 80

売上原価	
前T/B 100	損 益 100

売 上	
損 益 115	前T/B 115

損 益	
売上原価100	売 上 115

× ㊦

## 第6節 三分法（狭義）

### 1. 意義

三分法とは、一般商品売買の取引を繰越商品勘定、仕入勘定、売上勘定に記録し、期末に一括して売上原価を算出することによって売上高と売上原価の対応を図る記帳方法である。

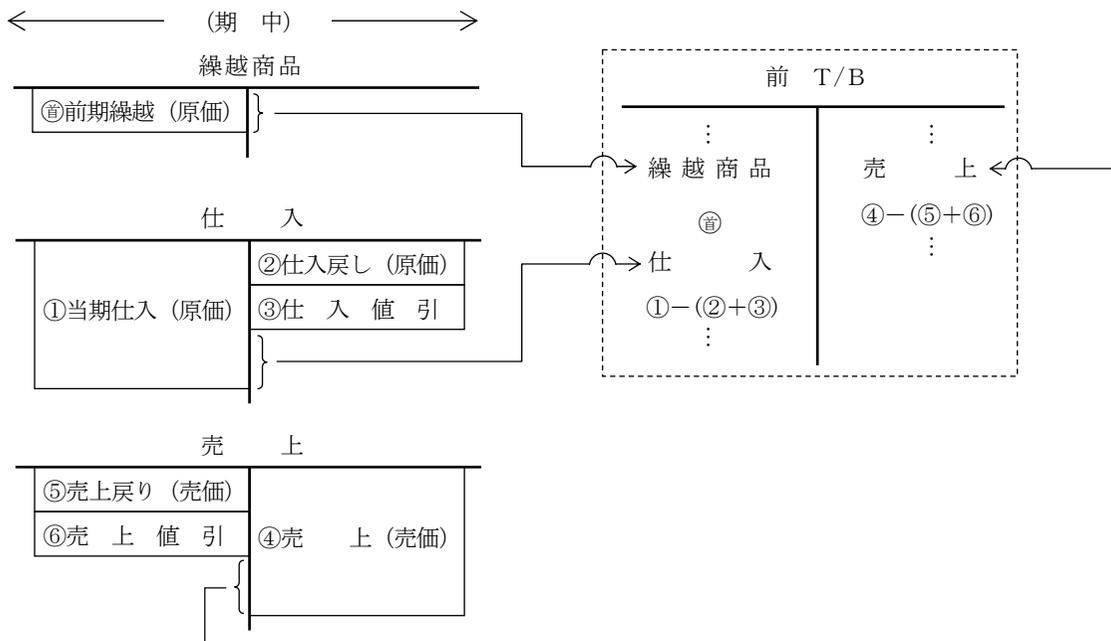
### 2. 特徴

- ① 商品仕入時に仕入勘定の借方に仕入原価で記帳し、商品販売時に売上勘定の貸方に販売売価で記帳する。
- ② 繰越商品勘定は、期中では増減せず、決算整理時の売上原価算定の際に増減する。
- ③ 期中では売上原価は算出されず、決算整理仕訳を行うことにより初めてその売上原価が算出される。

### 3. 会計処理

取引形態	仕 訳	留 意 点												
期     中	①仕 入 (借)仕 入×× (貸)買 掛 金××	掛による場合。												
	②仕入戻し (借)買 掛 金×× (貸)仕 入××	仕入時に原価で記帳しているため、その反対仕訳を原価で行う。												
	③仕入値引 (借)買 掛 金×× (貸)仕 入××	仕入時に利益を付加しないで記帳しているため、その反対仕訳を値引額（原価部分）だけ行う。												
	④売 上 (借)売 掛 金×× (貸)売 上××	掛による場合。												
	⑤売上戻り (借)売 上×× (貸)売 掛 金××	売上時に売価で記帳しているため、その反対仕訳を売価で行う。												
	⑥売上値引 (借)売 上×× (貸)売 掛 金××	売上時に利益を付加して記帳しているため、その反対仕訳を値引額（利益部分）だけ行う。												
決  算	⑦整 理	売上原価の算定場所及び販売益の算定方法の組み合わせにより下記の5通りの方法が考えられる。 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th></th> <th>総 額 法</th> <th>純 額 法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>仕 入 a/c</td> <td>ケ ー ス I</td> <td>ケ ー ス IV</td> </tr> <tr> <td>売上原価 a/c</td> <td>ケ ー ス II</td> <td>ケ ー ス V</td> </tr> <tr> <td>損 益 a/c</td> <td>ケ ー ス III</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>		総 額 法	純 額 法	仕 入 a/c	ケ ー ス I	ケ ー ス IV	売上原価 a/c	ケ ー ス II	ケ ー ス V	損 益 a/c	ケ ー ス III	—
			総 額 法	純 額 法										
	仕 入 a/c		ケ ー ス I	ケ ー ス IV										
	売上原価 a/c		ケ ー ス II	ケ ー ス V										
損 益 a/c	ケ ー ス III	—												
⑧振 替														

< 勘定連絡図 > (前頁の取引番号と対応している。)



point up lesson 5

解答用紙は P. 180

次の資料にもとづき勘定連絡図を書きなさい。

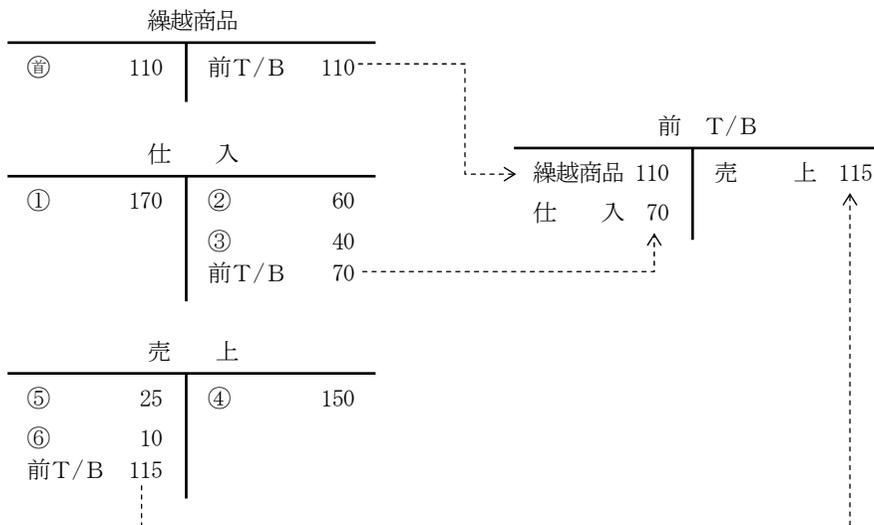
期首商品棚卸高: 110

①総仕入高: 170, ②仕入戻し高: 60, ③仕入値引高: 40

④総売上高: 150, ⑤売上戻り高: 25, ⑥売上値引高: 10

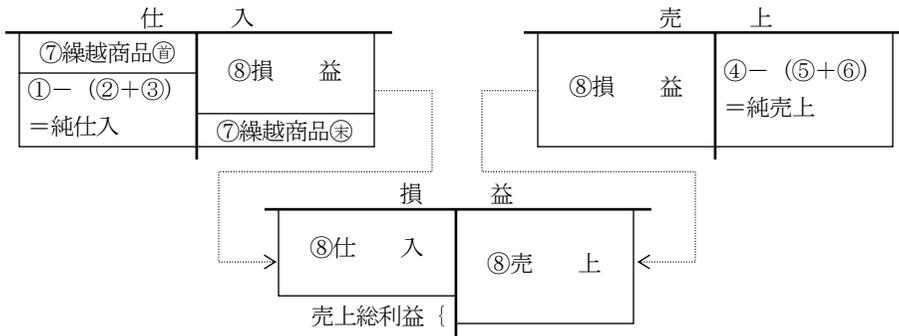
期末商品棚卸高: 80

← ( 期 中 ) →



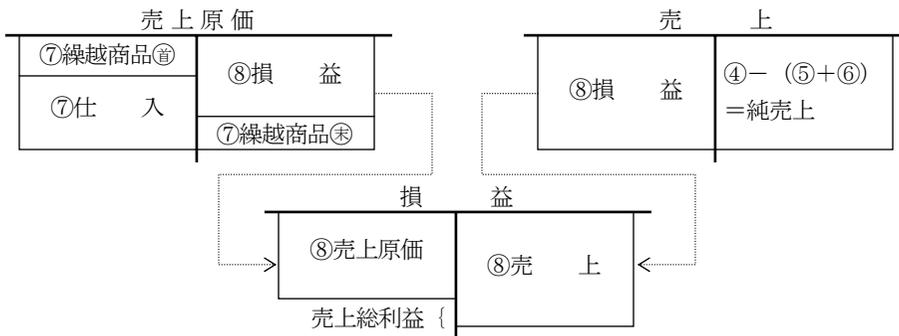
< ケース I > (総額法-仕入a/c)

決 算	⑦整理	(借)仕 入 ×× (貸)繰越商品⑦××	(借)繰越商品⑦××	(貸)仕 入 ××
	⑧振替	(借)損 益 ××	(借)売 上 ××	(貸)損 益 ××
		(借)残 高 ××	(貸)繰越商品⑦××	



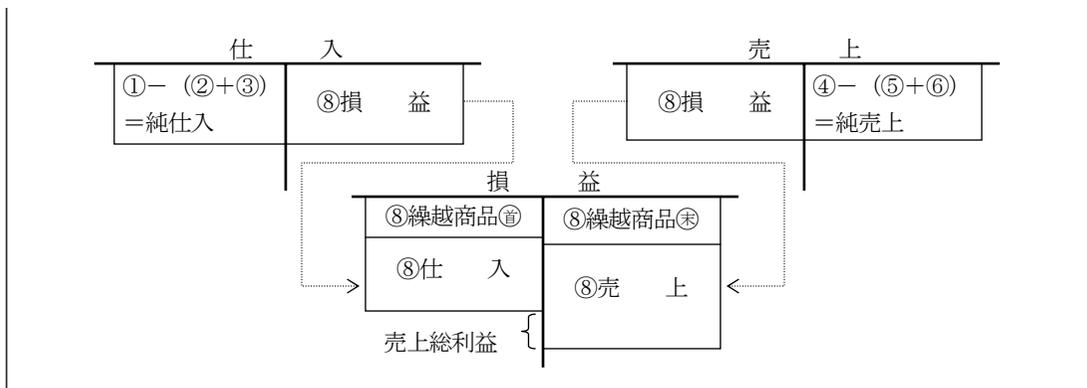
< ケース II > (総額法-売上原価a/c)

決 算	⑦整理	(借)売上原価 ××	(借)繰越商品⑦××	(貸)繰越商品⑦××	(貸)仕 入 ××
	⑧振替	(借)損 益 ××	(借)売上原価 ××	(貸)売上原価 ××	(貸)損 益 ××
		(借)残 高 ××	(貸)繰越商品⑦××		



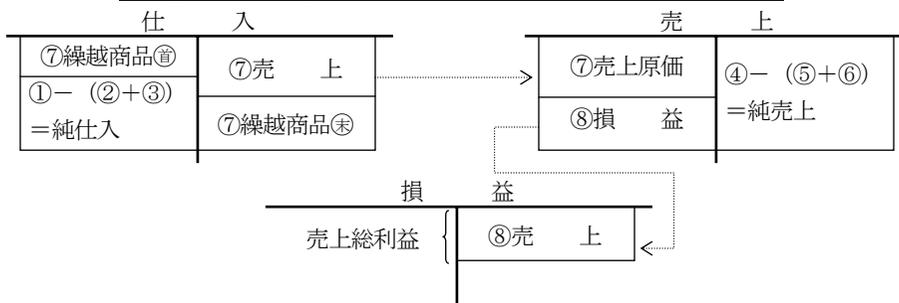
< ケース III > (総額法-損益a/c)

決 算	⑦整理	-			
	⑧振替	(借)損 益 ××	(借)繰越商品⑦××	(貸)繰越商品⑦××	(貸)仕 入 ××
		(借)損 益 ××	(借)売上原価 ××	(貸)損 益 ××	(貸)損 益 ××
		(借)残 高 ××	(貸)繰越商品⑦××		



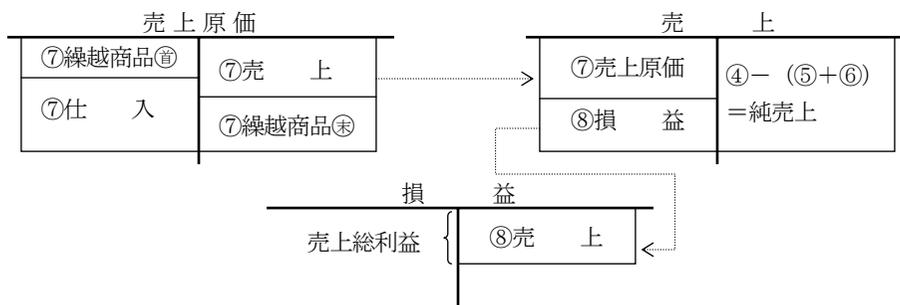
< ケースⅣ > (純額法-仕入a/c)

決算	⑦整理	(借)仕入 ××	(貸)繰越商品⑩××
		(借)繰越商品⑩××	(貸)仕入 ××
⑧振替	⑧振替	(借)売上 ××	(貸)仕入 ××
		(借)残高 ××	(貸)繰越商品⑩××



< ケースⅤ > (純額法-売上原価a/c)

決算	⑦整理	(借)売上原価 ××	(貸)繰越商品⑩××
		(借)売上原価 ××	(貸)仕入 ××
⑧振替	⑧振替	(借)繰越商品⑩××	(貸)売上原価 ××
		(借)売上 ××	(貸)売上原価 ××
		(借)残高 ××	(貸)繰越商品⑩××



## 第7節 商品有高帳

### 1. 意義

商品有高帳とは、商品の受入・払出・残高を継続的に記録し常に手許商品の現在高を明らかにする商品売買に関する補助元帳である。それは、商品の種類別に設定され、受入欄・払出欄・残高欄にそれぞれ数量・単価・金額が記入されるので、帳簿による棚卸が可能となり手許商品の在庫管理に役立つとともに、ただちに払出単価を算定しうる利点をもつ。

### 2. 記入方法

商品有高帳への記入の仕方は、期中の払出単価の決定方法により異なる。

- ・期中払出単価の決定方法
- ①個別法… 実際単価をもって払出単価とする方法。
  - ②その都度先入先出法… 最も古く取得したのから順次払出が行われるとみなす方法。
  - ③その都度後入先出法… 最も新しく取得したのから順次払出が行われるとみなす方法。
  - ④移動平均法… 払出直前の残高の加重平均単価をもって払出単価とみなす方法。

<フォーム>

#### ② その都度先入先出法

日付	摘要	受入			払出			残高		
		数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
1. 1	前繰	6	10	60				6	10	60
4	仕入	4	15	60				{ 6 10 60 4 15 60		
6	売上				{ 6 10 60 2 15 30				2	15
7	仕入	6	16	96					{ 2 15 30 6 16 96	
8	売上				{ 2 15 30 3 16 48			3		16
	当月払出					13			168	
31	次繰				3	16	48			
		16		216	16		216			
2. 1	前繰	3	16	48						

③ その都度後入先出法

日付	摘要	受入			払出			残高		
		数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
1. 1	前繰	6	10	60				6	10	60
4	仕入	4	15	60				{ 6 4	10	60
									15	60
6	売上				{ 4 4	15	60	2	10	20
						10	40		16	40
7	仕入	6	16	96				{ 2 6	10	20
									16	96
8	売上				5	16	80	{ 2 1	10	20
									16	16
	当月払出				13		180			
31	次繰				{ 2 1	10	20			
						16	16	16		
		16		216	16		216			
2. 1	前繰	{ 2 1	10	20						
			16	16						

④ 移動平均法

日付	摘要	受入			払出			残高		
		数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
1. 1	前繰	6	10	60				6	10	60
4	仕入	4	15	60				10	12	120
6	売上				8	12	96	2	12	24
7	仕入	6	16	96				8	15	120
8	売上				5	15	75	3	15	45
	当月払出				13		171			
31	次繰				3	15	45			
		16		216	16		216			
2. 1	前繰	3	15	45						